

私	た	ち	の	世	代	の	人	が	、	今	農	業	に	持	っ	て	い	る	
イ	メ	-	ジ	は	「	マ	イ	ナ	-	」	だ	と	思	う	。	「	天	候	に
左	右	さ	れ	て	大	変	そ	う	」	、	「	一	年	中	休	み	が	無	さ
そ	う	」	、	「	地	味	な	作	業	が	多	そ	う	」	、	と	農	業	を
敬	遠	し	が	ち	な	意	見	が	多	く	、	調	べ	に	よ	る	と	、	約
4	5	%	も	の	人	が	、	「	農	業	を	仕	事	と	し	て	イ	メ	-
ジ	で	き	な	い	」	と	回	答	し	た	。	し	か	し	、	食	に	直	接
約45% → (http://research.lifemedia.jp)																			
緊	が	る	農	業	は	、	私	達	と	は	切	っ	て	も	切	れ	な	い	存
在	で	あ	る	。	今	で	は	「	マ	イ	ナ	-	」	な	イ	メ	-	ジ	を
持	た	れ	て	い	る	農	業	だ	が	、	元	々	農	業	は	「	メ	ジ	ャ
-	」	な	職	業	で	あ	り	、	私	達	は	農	業	と	共	に	成	長	し
て	き	た	。																
農	業	の	始	ま	り	は	縄	文	時	代	に	ま	で	遡	る	。	雑	穀	
や	根	菜	類	を	採	取	す	る	た	め	に	雑	草	を	取	り	除	き	採
取	を	し	た	こ	と	が	農	業	の	始	ま	り	だ	と	言	わ	れ	て	い
る	。	群	鳥	時	代	に	な	る	と	、	そ	れ	ぞ	れ	の	地	域	の	人
に	農	地	が	振	り	分	け	ら	れ	る	よ	う	に	な	り	、	や	が	て
農	地	は	私	有	化	し	、	よ	り	収	穫	を	得	る	た	め	に	農	民
は	、	農	具	、	家	畜	、	肥	料	、	裏	作	や	二	毛	作	、	品	種
農業の歴史 → (http://rekishi-memo.net)																			
の	増	加	な	ど	様	々	な	面	で	工	夫	を	し	て	、	農	業	は	豊

かになっ た。また、川の改修、土木工事の技
術の発達により耕地面積も拡大し、江戸時代
には農業人口は75%にも上り、作物が取れ
ない時は生活を大きく左右され、飢饉に苦し
んだ。このように、昔の人々は自然と寄り添
った形で工夫をし、自然に逆らえない時は諦
め、負けて来たのだ。

しかし大正時代に入ると、農業人口が工業
に流れ、足りなくなっ た労働力を化学肥料や
機械化によって対処しようとするようになっ
た。これは、今までとは異なり、環境を汚染
するやり方である。私たちは、自然と共に生
きるというやり方を志し、自然を制御しよう
とするようになっ てしまっ たのだ。

現代の農業は「エネルギー消費型農業」と
呼ばれる。害虫の駆除もヘリコプターで農薬
をばら撒き、圃場を操作するためにビニールハ
ウスを使用し、保温のために大量のエネルギー
を消費する。このような自然の流れに逆ら
った無理のある農業のやり方によって、これ

まで千年以上続いてきた農業は限界を迎えて
いる。地球温暖化が進むと、異常気象が発生
するようになり人間の手には負えなくなる。
その兆候はもう、ここ数年にも見えてきてし
まっているだろう。

どうすれば現代の社会の中で、自然を害さ
ずに農業ができるだろうか。私は、2つの解
決策を見つけた。1つ目は、「人が自然に合
わせる」農業を、技術が発達した現代だから
できる方法で効率よく行うこと。2つ目は、
それに伴いより多くの人手が必要となるので、
農業に就く事に対する抵抗を減らし、農業人
口を増やすことだ。

1つ目の解決策の一例として、私は「モニ
タリングと分析」という農業に注目した。こ
れは、Nkアグリというバンチャー企業が行
う新しい農業の形だ。センサーで葉や土の状
態をこまめに調べ、環境と、植物の生育との
相関関係を調べるというものだ。これで収穫
時期や収穫量、その地域での旬の時期が予想

でき、また、最適な生育地域なども割り出す
ことができるといふ。しかも、これらの情報
はインターネットで誰でも共有できるといふ
のが今の時代だ。そうすれば、早い段階で足
りない分を予測して補ったり、別の地域で誰
かがその分を補うこともでき、安定した生産
を望むことができる。何より、無理にビニ
ルハウスで旬を操作したり、必要のない時に
無駄な肥料をばら撒くことも無いので、環境
に優しいのだ。

このようなやり方が浸透するのには時間か
かかるかも知れないが、発達を続ける技術が
自然を尊重する方向へと活用されるといふ点
が良いと思うのである。

2つ目の解決策には様々なものがある。奥
は私は最近まで、科学技術や機械に興味のあ
る若者は沢山いるので、そのような方面で農
業に携わることができれば、農業人口を増や
す事が出来るという考えを持っていた。しか
しそれでは「エネルギー消費型農業」に拍車

をかけるだけだと思っただため、ここではなるべく自然に看、た形の対策を考えたい。

まずは、農業に興味を持ってもらうこと。

最近では、息抜きや癒しとしてのお洒落な新しい農業が注目を集めているが、実際の農業は本来大変で、汚れ仕事や地味作業も多いものである。そのような作業に興味を持ってもらうにはどうすれば良いかと考えた時、私は祖母や叔母の畑でよく収穫を手伝った事を思い出した。中々大変な作業だが、その時に味わう達成感や幸福感は気持ちのいいものだった。

現代ではそのような経験をjする機会があまりないので、学校の行事で農業をする機会を増やすことで、「んそう」という遠いイメージを持ってjるだけの若者に、農業をする事の利点を知ってもらjると良いと思う。

そして、国の援助はやはり欠かせない。農業を始めようと思っjる若者に、収入が安定するまでは資金援助をする、などの方法で、「安定した収入が得られなない」という農業の

マイナス面を解消できる。また、農業に興味のあるけれどやり方が分からないという人に、農業を職業としている人がアドバイスできる環境づくりをすると良いだろう。農業を身近に感じ、「始めやすい」と思ってもらう事が、農業に対する抵抗を減らす第一歩となる。

このように一つ一つ考えてみると、本当に小さなことから始めるだけでも、大きな変化に繋がるということが分かる。

「マイナー」な職業に付、てしまった農業。しかしこの世からの私たちの未来を考えるのなら、誰かが必ずやらなければならない、必要不可欠な職業だ。もちろん今の夢を変えて農業をやれとは言えない。例えば仕事を定年退職してから農業を始めるのでも良いから、少しでも農業を支えようという気持ちをもつ人が増えて欲しいと思う。そして、自然を支配すること当たり前になってしまった私達は、今、もう一度原点に帰って農業の在り方について考え直す必要があると思う。